



# CLINICALPATH NEWS

Japanese Society for Clinical Pathway

一般社団法人  
日本クリニカルパス学会

No.  
46

発行日  
2023年3月24日

in 岐阜

## 第22回日本クリニカルパス学会 学術集会開催報告

2022.11.11~12

第22回学術集会 会長、松波総合病院 病院長  
松波和寿

第22回日本クリニカルパス学会学術集会が、2022年11月11~12日にかけて岐阜で開催されました。昨今のCOVID-19により、学会、セミナーなどはほとんどがハイブリッド開催やWeb開催の中、今回の学術集会はリアル

なコミュニケーションを取り戻すことを目的の一つにしました。学会参加の意義である講演を聞いて学ぶことはもちろん、日頃疑問に思うことをエキスパートに聞き、本音で話し合える場が提供できるように、感染対策を十分に行いながら現地開催にこだわり、関係スタッフおよびプログラム委員の皆さんと企画いたしました。当初は、感染状況が読めず本当にリアル開催(現地)ができるのか?不安な毎日でしたが、1,300人弱の方が参加していただき、無事学術集会を終えることができました。皆様に感謝を申し上げます。

また、プログラム委員長(白鳥義宗先生)を中心に、今回の大会でのテーマでもある「Diversity 2022 -新世代のクリニカルパス-」に沿った、シンポジウム・パネルディスカッション・ワークショップ・セミナー・一般発表(ポスター)をプログラム委員内で企画しました。また、他学会とコラボレーションした企画も多様性の一つとして意義あるもの



▶ 第22回日本クリニカルパス学会学術集会開催報告  
第22回日本クリニカルパス学会学術集会賞 最優秀賞を受賞して  
リレーエッセイ 第40回



だったと思います。各セッションではフロアーの多くの参加者から質問があり、熱心な討議が行われました。日本クリニカルパス学会の醍醐味を十分に味わうことができた素晴らしい企画とコンテンツであったと、たくさんの参加者から賞賛の声をいただきました。

私が参加したセッションで印象深かったのは、個人的意見ですが……、

①シンポジウム3【AIがもたらす未来の医療】

現時点でのIT技術を駆使して便利かつ優秀な診療支援システムを有効活用している事例を示すとともに、近未来構想と、さらに未来の妄想に近い医療AI事例を描いて皆さんと一緒に議論。

②パネルディスカッション6【パス活動の世代交代】

今後のパスの推進、継続、改良のための具体的な対策や工夫を一緒にディスカッション。

③シンポジウム6【働き方改革・タスクシフティングとパス】

(日本医療・病院管理学会との共催企画)

働き方改革が進められる中で、医療の質を担保しながら、効率性を図るためのマネジメントに関して、クリニカルパ

スの活用を視点におきながら検討。

その他のセッションも盛り上がっていたと聞いています。今回の日本クリニカルパス学会学術集会は、多種多様な人が互いの考え方の違いや個性を受け入れながら、ともに成長に向けて、今一度考え直す良い機会になったのではないかと思います。

最後に、今回の学術集会運営は、外部業者に委託せず、松波総合病院のスタッフを中心に関係者での手作りであり、今後の当院の人材育成の一環としても寄与すると期待しています。松波総合病院のスタッフは素晴らしい！と自画自賛させてください。本学術集会の運営にあたりましては、不届きの点も数多くあったかと存じますが、何卒ご容赦くださいますようお願い申し上げます。

次回、第23回日本クリニカルパス学会学術集会(埼玉)でお会いしましょう！

in 岐阜

## 第22回日本クリニカルパス学会 学術集会賞 最優秀賞を受賞して

2022.11.11~12

公立陶生病院 周産期母子センター  
甲斐由美

このたび、第22回日本クリニカルパス学会学術集会に参加し、演題「患者状態適応型パスシステム(PCAPS)を活用した新生児パスの作成」にて最優秀賞を受賞し、大変光栄に思っております。

私たちは、2019年に今回発表した健常新生児用の新生児パスの運用を開始しました。その後、新生児疾患パスも作成し、現在では新生児の状態の変化に応じてパスを利用し診療を行っています。





甲斐由美氏 松波和寿会長



芹田照子氏 甲斐由美氏 松波和寿会長 大平圭祐氏

「産科医療補償制度第6回再発防止に関する報告書」では、脳性麻痺発症の793件の原因分析において、生後5分までに新生児蘇生処置が不要であった事例は188件あり、正期産で仮死なく出生しても、それだけで正常と判断することができないという結果でした。そして、健常新生児に対する慎重な観察、観察記録の作成、小児科医への報告基準の作成が提言されました。

一方、日本の診療報酬制度では健常新生児に対する看護人員配置は保険診療報酬の対象外で、看護人員配置が不十分です。さらに、近年の分娩件数の減少に伴い、産科単科での運用が困難であり混合病棟では母子のケアに集中することが難しい状況です。健常新生児とは、出生に伴う適応過程が順調に進み、生後の経過で疾患がないことにて判断されます。健常からの逸脱は、いつ発生するのか予測不可能です。患者状態適応型パスシステム(PCAPS)を活用した新生児パスは、新生児の適応過程、予測される変化を基にアウトカムを設定し、必要とされる観察・測定・処置・検査・報告基準やケア内容を時間軸に合わせて、実施時間や実施間隔を設定しました。適切な新生児管理を行うことができ、スタッフ教育にも活用可能です。さらに、患者用パスの説明を通してご家族との情報共有を図り、単なる母親の付属児ではない「発言できない新生児」に対する尊敬をもった関わり方を見直す機会にもつながったと思います。

これまでも健常新生児に対するクリニカルパスは散見されますが、新生児の胎外環境への適応過程や異常の早期発見を念頭に作成されたものは少ないと思います。周産期医療における健常新生児の診療・ケアの重要性の再認識につながれば幸いです。新生児パスを作成、運用、分析し、クリニカルパスが医療の質・安全の向上に貢献できることを学びました。さらに、作成から分析、発表・受賞にまで至る素晴らしい経験をすることができました。これは共同演

者である小児科家田訓子先生およびクリニカルパス委員の方々のおかげであり、心から感謝を申し上げます。

#### 【日本クリニカルパス学会 第22回学術集会賞 受賞者】

##### 最優秀賞：

2-D-03 「患者状態適応型パスシステム(PCAPS)を活用した新生児パスの作成」

公立陶生病院 甲斐 由美

##### 優秀賞：

2-D-04 「大腿骨近位部骨折クリニカルパスに対する栄養ケア導入の効果」

小牧市民病院 大平 圭祐

2-D-06 「PFM(Patient Follow Management)での患者用クリニカルパスの活用」

NTT東日本関東病院 芹田 照子

##### ノミネート賞：

2-D-01 「Patient Flow Management(PFM)とクリニカルパス活用の課題」

北里大学大学院 下村裕見子

2-D-02 「BIツールを使用した多角的パス分析」

横浜市立大学附属病院 田橋 啓順

2-D-05 「消化器がん手術部位と身体活動量に関する回復過程の検討」

高崎総合医療センター 佐藤 優

2-D-07 「急性大動脈解離内科治療パスにおける長期入院要因の検討」

聖路加国際病院 山田 晴香

2-D-08 「脳卒中地域連携パスからみたコロナ禍の影響」

熊本赤十字病院 寺崎 修司

## 【2022年度日本クリニカルパス学会論文奨励賞】

### 実践報告：第24巻第1号掲載

「BIツールとETLツールを用いたクリニカルパスデータ分析プロセスを改善する試み」

済生会熊本病院 西中 巧

### 実践報告：第24巻第1号掲載

食道がん術後せん妄ハイリスクパスの評価と修正

神奈川県立がんセンター 谷島 和美

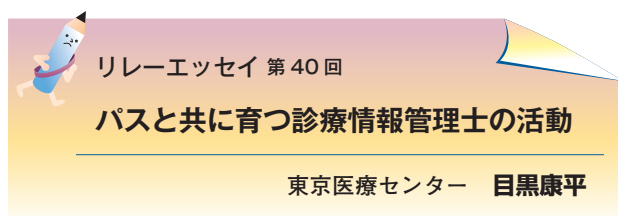
### 実践報告：第24巻第1号掲載

当院クリニカルパスにおける急性期リハビリアウトカム導入の試み

済生会熊本病院 日高 淳  
以上、敬称略



谷島和美氏 西中巧氏 日高淳氏



2019年の日本クリニカルパス学会主催指導者養成セミナーのご縁で、大変僥倖ながら一宮西病院の松原先生よりバトンを預かりました、東京医療センター診療情報管理士の目黒と申します。

私とクリニカルパスとの出会いは2016年に院内パス委員会へ参加したことが契機です。当初は議事録作成係としての関与に留まり、診療情報管理士として期待されたデータ抽出や分析のニーズに応えられませんでした。患者用パスのホームページ掲載、システム更新に伴う患者用パスの運用変更などを経て、少しずつパスとの接点が増えました。

2018年には、パス分析のニーズに応えるため、当学会への入会、他団体のパス勉強会やセミナーへの参加、学術

集会@函館への参加など、当時は対面開催が多く、パスに直接触れることができました。特に幸運に恵まれたのは、学術集会直前のイベントで勝尾先生のランチョンセミナーを拝聴しパス分析のイメージが湧いたこと、学術集会で他施設の診療情報管理士がDPCデータを活用したパス見直しを行っているを知ったことです。約2年間パス分析のニーズに応えられず、暗中模索のような中で大きな光明となり、非常に勇気をいただきました。この手法を参考に院内でパス分析を行ったことで、小さな成功体験を得て、パスに関わる楽しさにつながりました。この取り組みを続けたことで、大変光栄なことに2021年学術集会@山形ではパネルディスカッションの演者にご指名いただき、さらに学会誌に特集として掲載していただくこととなりました。ご興味のある方は日本クリニカルパス学会誌Vol.24 No.2, 2022をご覧ください。

2019年には、学会主催の教育セミナー基礎編だけでなく、パス関東友の会、他施設の公開パス大会、指導者養成セミナーに参加したことで、知識や経験を得るだけでなく、多くの仲間に出会うこともできました。2020年以降、パス関連イベントは縮小やWEB形式が増え対面開催は減りましたが、一方で多くの施設がWEB形式のパス大会を開催してくださるので、自身だけでは伝えきれないパスの神髄やマインドを、WEBを通じて高名な先生方より院内の医療者へ伝えていただく貴重な機会となりました。また、医療者の協力を得て、院内でパスと称して使用される「パスもどき」を撲滅し「アウトカム志向パス」を目指す改版作業にも取り掛かることができました。パスに関わることで貴重な出会いや経験ができたことに感謝しつつ、診療情報管理士の立場から医療の質向上に貢献したいと考えております。

そして、現在は2023年11月10日、11日にさいたま新都心で開催される学術集会の実行委員やプログラム委員に、末席ながら加えていただき、経験豊かな先生方にご指導いただきながら案を作っております。ぜひ、学術集会へお越しください。演題登録をお待ちしております。次回は国立国際医療研究センター病院看護師の齊藤大介さんにバトンをお渡しいたします。



目黒康平氏 (右)

## 事務局より



### 会員向け教育コンテンツの公開について

広報委員会

広報委員会では会員の皆様に有益な情報を提供するために、会員専用ページに掲載する教育コンテンツの充実を図っています。

現在は以下のコンテンツを掲載しています。

- 過去に開催された学会のポスター発表データ(PDF)
  - 論文の書き方セミナーの動画
  - 教育セミナー基礎編の動画
- ぜひ、ログインをして内容を確認してみてください。

ログイン方法：



1. 日本クリニカルパス学会ホームページのTopページ右上「会員専用ページ・ログイン」をクリック。
2. ログインの際に必要なユーザー名・パスワードは、最新号の日本クリニカルパス学会誌の編集後記のページにて、都度ご確認ください。(パスワードは定期的に変更させていただいております)

### 第23回 日本クリニカルパス学会学術集会

会 期：2023年11月10日(金)・11日(土)

会 場：THE MARK GRAND HOTEL  
(旧ラフレさいたま)  
(埼玉県さいたま市中央区新都心3-2)

会 長：齋藤 登  
(獨協医科大学埼玉医療センター 総合診療科 教授/  
パス関連友の会代表)

テ ー マ：パスは続くよどこまでも  
—多職種がともに学びあう未来へ向けて—  
プログラム：

理事長講演、会長講演、特別講演、教育講演、シンポジウム、パネルディスカッション、論文の書き方セミナー、一般演題(口演、ポスター、クリニカルパス展示)など

演題登録申し込み期間：

2023年3月23日(木)～6月22日(木)

事前参加申し込み期間：

2023年6月1日(木)～11月2日(木)

第23回学術集会公式ホームページ：

<https://jscp2023.jp/index.html>

### 第23回 日本クリニカルパス学会学術集会

会期 2023年11月10日(金)・11日(土)

会場 THE MARK GRAND HOTEL さいたま新都心  
<旧ラフレさいたま>

会長 齋藤 登 獨協医科大学埼玉医療センター 総合診療科 教授  
パス関連友の会 代表



パスは続くよどこまでも  
—多職種がともに学びあう未来へ向けて—



第23回日本クリニカルパス学会学術集会 運営事務局  
株式会社コンフレ北海道支社  
〒060-0025 北海道札幌市中央区南5条東5丁目2-12 株式会社コンフレ7層  
TEL: 011-233-0005 / FAX: 011-233-0035 / E-Mail: jscp2023@confr.co.jp



<https://jscp2023.jp>



2023年度

### 資格認定制度

「臨床現場における具体的なクリニカルパスの導入・運用および改善を支援する」という目的において、クリニカルパスの質を維持・向上することおよびその人材を育成することが必要と考え、パス認定士・パス指導者・パス上級指導者の3段階制の資格認定制度を設けております。詳細は下記URLより資格認定制度概要をご覧ください。

<https://www.jscp.gr.jp/nintei.html>

### 学術研究助成

研究によって臨床現場におけるクリニカルパスの導入・運用および改善の支援に寄与することを目的として、学術研究助成を実施しております。多数の申請をお待ちしております。

【応募資格】主任研究者は日本クリニカルパス学会個人会員(申請時に個人会員であれば可)とする

【応募期間】2023年4月3日(月)～5月31日(水)

<https://www.jscp.gr.jp/josei2.html>

### 優秀英語論文賞 (JSCP Best Paper Award)

「学術的な研究を推進することを目的に、国際的に認められる研究の英文での発表を奨励する一環として、優秀な英語論文を表彰する」意図で、『優秀英語論文賞』を制定しております。皆様の応募をお待ちしております。

【応募資格】日本クリニカルパス学会個人会員(申請時に個人会員であれば可)

【応募期間】2023年4月3日(月)～5月31日(水)

<https://www.jscp.gr.jp/ronbun.html>

### クリニカルパス教育セミナー

#### 『楽しく学ぼうクリニカルパス ～知ろう！作ろう！使いこなそう！～2023』

2023年は、Web Live 配信での開催を予定しております。

パスの導入教育、初期教育の実施に悩んでいる病院の皆様はもちろん、すでに自施設で実施できている病院の皆様にも役に立つ内容となっています。多くの仲間と誘いあつてご参加ください。

【開催日程】2023年7月1日(土) 13:00～17:00

<https://www.jscp.gr.jp/act7.html>

### 2023年度エキスパートミーティング

クリニカルパスに関する現状把握と今後を展望すること、クリニカルパスに関するエキスパートを育成することを目的として、ワークショップ形式での開催を予定しております。

【開催日程】2023年8月5日(土)～6日(日)

<https://www.jscp.gr.jp/act5.html>

### 日本クリニカルパス学会 会員募集中!

日本クリニカルパス学会では随時会員を募集しております。お申込みの詳細については下記URLより学会ホームページをご覧ください。

#### 〈会員の特典〉

- ・本会発行の学会誌、ニュースレター等の定期刊行物を受け取ることができる。
- ・学術集会で演題発表ができる。
- ・学会主催のセミナーなどに会員価格で参加ができる。
- ・認定資格を取得できる(個人会員に限る)。
- ・本会専用のメーリングリストに登録が可能。わからないことはメーリングリストで質問できる。

入会金：個人会員 医師 10,000円、医師以外 7,000円 法人会員 40,000円

年会費：個人会員 医師 10,000円、医師以外 7,000円 法人会員 40,000円

<https://www.jscp.gr.jp/contact.html>



発行

一般社団法人 日本クリニカルパス学会

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 5-8-10 外苑マンション 605

TEL.03-3354-2005 FAX.03-3354-2017 ホームページ：<https://www.jscp.gr.jp/>